

第1回 CT検査について ~放射線科~

「モノ(医療機器など)・ヒト(技術、想い、取り組みなど)・コト(疾患、症例、画像など)」と題し、当院で提供している医療技術について、各部門の専門職が紹介いたします。

Q1 CT検査とは?

A. CTとは、「Computed Tomography」の略称で、日本語では「コンピューター断層撮影」などと訳されます。機械に入った人体に全方位からX線を照射および撮影し、人体を通過したX線量のデータを収集します。収集したデータをコンピューターで処理し、人体の断層画像として描写する仕組みです。空間分解能に優れているため、微細なものまでよく見えるのが特徴です。



Canon社製80列マルチスライスCT Aquilion Prime SP Edition

ら最適なものを選択していきます。また、造影剤を使用することで画像にコントラストがつけやすくなり、特定の臓器を強調したりして検査の精度を向上させることができます。

Q3 被ばくの心配はありませんか?

A. CT検査による被ばく量は検査部位によって異なります。放射線の量は、医師の指示の下、身体に影響が出ると言われている量よりもはるかに少ない量を使用し、検査に必要な場所のみ照射しているため、放射線による身体への影響を心配することはありません。また、最新の被ばく低減技術で従来の装置に比べ少ない被ばくで高精細な画像を撮影することができます。



CT装置の技術は日進月歩であり、放射線技師は複雑化した技術への対応や被ばく線量の管理などの専門性・安全性の担保が必要です。そのため研究会の参加や専門資格の取得を行っています。
診療放射線技師 當麻 北斗

Q2 CT検査で分かることは?

A. CT検査の目的は、肺炎など臓器の炎症の有無の確認、病気の状態の詳しい観察、手術前の精密検査、手術後や抗がん剤治療中の経過観察など多岐にわたります。それぞれの検査目的に応じて、さまざまな撮影方法や画像処理方法の中か

HOT LINE

令和7年度 館山病院入職式と新入職員研修

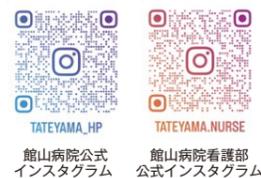
4月1日に入職式が執り行われ、看護師7名、看護補助1名、介護福祉士1名、事務員1名、計10名の新たな仲間をお迎えしました。



3日間のオリエンテーションでは、医療従事者としての基本的な能力を習得することを目的とした座学の他、一次救命蘇生法、移送輸送・移乗動作などの実技の演習を他職種間で行いました。



各々現場の先輩方から学び、成長し、共に地域医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。



館山病院の理念

「生命だけは平等だ。」
「生命を安心して預けられる病院」
「健康と生活を守る病院」

基本方針

- ①24時間診療体制の維持向上に努めます
- ②適切な情報の提供、十分な説明と同意を心がけ、患者さまの意志と人権を尊重します
- ③患者さまの安全と安心を第一に考え、満足と信頼をいただけるような医療サービスをご提供します
- ④近隣の医療機関や施設と連携し、地域に密着した医療を行います
- ⑤医療知識、技術、接遇の向上に絶えず努力します



病院機能評価(3rdG: Ver.3.0)、主たる機能「一般病院 1」、追加の副機能として「リハビリテーション病院」認定証の交付を受けました。



交通案内 富津館山道「富浦IC」より車で約8分
JR館山駅よりバス・タクシーで約10分



発健伝

医療法人徳洲会 館山病院 広報誌

Take Free
ご自由にお持ちください

TOPICS

その症状、摂食嚥下障害かも!?

発健体操 / 医療技術のモノ・ヒト・コト
HOT LINE

Interview

口腔機能リハビリテーションセンター センター長
昭和医科大学名誉教授

高橋 浩二

嚥下障害の診療に チームで取り組み 高齢者の命を守る



医療法人徳洲会
館山病院

編集後記

発健伝Vol.6を手にとってくださりありがとうございます。特集インタビューは摂食嚥下医療について、美味しく食べるためのお口の機能を高めることは健康な身体を維持するうえで重要になりますので必読です。そして本号よりスタートの新連載では、当院でできる、知らなかった医療技術を専門職がお話していきます。6月は気圧の変化による梅雨不調(頭痛や倦怠感など)が起こりやすいため体調管理を心がけていきましょう。

編集・発行/館山病院広報委員会
デザイン・印刷/ワタナベメディアプロダクツ(株) 2025年6月1日発行



医療法人徳洲会
館山病院 〒294-0045 千葉県館山市北条 520-1
☎0470-22-1122 (代表)
ご意見や問い合わせ pr@tateyama-hp.com



嚥下障害の診療にチームで取り組み 高齢者の命を守る

Interview

口腔機能リハビリテーションセンター センター長
昭和医科大学名誉教授

高橋 浩二

Koji Takahashi

最先端の摂食嚥下療法を 米国から日本に紹介

摂食嚥下医療は、日本でここ30年くらいの間に急速に進歩した分野です。高齢者が命を落とす主な原因の一つに誤嚥性肺炎がありますが、これは摂食嚥下機能が低下することによって、食べ物や飲み物が誤って気管に入り、肺に炎症を起こす病気です。

私が嚥下障害に関心を持ったのは、昭和大学の病棟で舌がんの患者さんを担当したのがきっかけです。それほど舌を切除しているわけではないのに、飲み込みができない。その方には手術前から嚥下障害があったということは分かったのですが、治療方法を調べようにも専門書が全くありませんでした。当時、日本は嚥下診療の「え」の字すらないような状況だったんです。その後、1989年に嚥下障害治療の第一人者である米国のMichael E. Groher博士の著書と偶然出会い、教授の下で学ばせてほしいとすぐに手紙を書き、翌年の初めには米国に飛んでいました。

米国で2年間学んだ後に帰国し、2022年に昭和大学を定年退職するまで30年間、摂食嚥下障害の研究と治療に打ち込んできました。Groher先生の著書との出会いは、私の医師人生を決定づけたターニングポイントだったと思っています。

医師とコメディカル 「4つの目」で治療に取り組む

当院へは2022年に入職し、地域初の口腔機能リハビリ施設である口腔機能リハビリテーションセンターのセンター長を拝命しました。当院には、むせる、飲み込みがしにくくなったといった嚥下障害の症状を訴える入院患者さんが多くいらっしゃいます。診断

PROFILE

1983年昭和大学歯学部卒業。昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科教授を経て2022年6月館山病院に入職。趣味はスポーツ全般。柔道は海外の大会で受賞歴を持つ。



では内視鏡を用い、飲み込みの様子を観察する検査を行います。わずか0.5秒程度の嚥下の動きを詳細に観察し、食べ物が気管に入るリスクを見極めます。食べ物だけでなく、寝ている間に唾液を少しずつ誤嚥して肺炎を起こす「マイクロアスピレーション」も危険因子で、放っておくと命に関わるケースもあります。

嚥下障害の診療の際には、看護師や言語聴覚士、歯科衛生士などに必ず立ち会ってもらいます。患者さんに寄り添う医療を実現するには、医師一人では全く不十分です。むしろ、現場で日々患者さんと接するコメディカルの力があってこそ、良い医療が成り立つと感じています。医療の中心は患者さんで、医師もコメディカルも対等な立場でそれぞれの医療プロフェッショナルリズムを発揮することが重要であると考えます。

命を救ってくれた 安房地域の医療ネットワークに感謝

今後は、嚥下障害の早期発見と予防的な対応にもっと力を入れていきたいです。口腔機能が衰えてもそれを鍛え直す方法や、衰えた嚥下機能でも安全に飲み込む方法が多くあります。患者さんのためにいつでもベストを尽くしたいですね。

私は館山に来てしばらくした頃、大動脈解離を起こし、命の危機に直面しました。土曜の早朝に発症したのですが、奇跡的にも地域の医療ネットワークで直ちに大手術を受けることができました。命を救っていただいた立場として、今度は私が地域の命を守る番だと感じています。当院で歯科・口腔外科・嚥下障害の三つの専門性を活かし、より多くの方に「食べる幸せ」を届けたいと思います。将来的には摂食嚥下診療のネットワークを構築し、継続的に地域医療を支える体制を築いていくつもりです。

その症状、摂食嚥下障害かも!?

食べ物を飲み込む動きを「嚥下機能」といいます。この機能が低下すると、食べ物や唾液が誤って気管に入ってしまう「誤嚥」を起こし、一緒に細菌が入り込んで誤嚥性肺炎を引き起こします。

こんな症状はありませんか?!

- 食事中や食後に咳や痰が増えた
- 痰に食物が混ざっている
- 飲み込んだ後、ガラガラ声になる
- 食べ物が口からこぼれる など

気になる症状がありましたら当院の口腔機能リハビリテーションセンターへご相談ください

診療の流れ

1 医療面接 (問診)

2 基本的検査

- 嚥下関与器官の視診
- 触診
- 発話・構音・発声の評価

3 嚥下障害のスクリーニング検査

● 頸部聴診法

のどに聴診器を当てて嚥下音や呼吸音の変化を聴取し、嚥下機能を評価します。



頸部聴診法

● 改訂水飲みテスト

3mlの水を飲んでいただき、飲み込みのスムーズさやむせ、呼吸の変化などを観察します。

4 嚥下障害の精密検査

● 嚥下内視鏡検査

鼻から内視鏡を挿入し、嚥下時の咽頭・喉頭を診断します。



● 嚥下造影検査

造影剤入りの食品を食べていただき、嚥下器官の動きや食品の動きを診断します。

摂食嚥下リハビリテーションの立案と決定

栄養摂取法の立案と決定、食介助・食形態・食器・食具・食事姿勢の立案と決定

診療案内

【診療科目】 口腔機能リハビリテーションセンター 歯科・歯科口腔外科
【診療時間】 月～金曜日 午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00

発健 療法士直伝の トレーニング 体操 【第6回】

今回の
テーマ

腰痛予防 腰を伸ばしましょう!

基本姿勢



床に仰向けになり、視線はまっすぐに天井を見ます。

日常生活の中で腰が反ってしまう方がいます。

張ってしまった腰の筋肉を伸ばして正しい姿勢を目指しましょう!

STEP 1

膝立て



両方の足の裏が床に付くように膝を立てます。この時、膝が左右に開かないように注意してください。

POINT

①～③を10回行ってください。息を止めないように注意しましょう。

STEP 2

膝を抱え込む

両膝を身体の前で抱え込むように両手で抱きます。



STEP 3

膝を深く抱え込みながらお腹を見る

抱えた膝をお腹に深く抱き込みながら、自分のお腹を見るように首を起こします。この姿勢を2秒ほど保ちます。2秒経過したら、①の姿勢に戻ります。



療法科
Instagramも
ぜひご覧ください